

平成十三年度に五カ年計画でスタートした「ナノガラス技術プロジェクト」は、二年目の途上にもかかわらず数々の成果を上げつつある。プロジェクトリーダーの平尾一之・京都大学教授は、「ガラスを高機能化したのは世界で初めてのことだ」とその意義を強調する。

海外から高い関心

——ナノテクノロジーで、ガラスを新しい材料に変えようとしている。

「ガラスはもはや、単なる窓ガラスのイメージではなく、基幹材料としてさまざまな分野に浸透している。とりわけ、光ファイバーやディスプレイなどIT（情報技術）分野での応用が活発だ。だけ

プロジェクトリーダー（京大教授） 平尾 一之氏



ど、それをいままでどこも高機能化していなかった」

——では、このプロジェクトに対する海外からの注目度も高いのか。

「米コーニング、独ショット、仏サンゴバン、英ビルキントンなど欧米の大手ガラス会社が相次ぎ調査にきている。中国や台湾の政府からも

講演に招かれるなど、ものすごく注目されている。プロジェクトには国内の十一社が参加しているが、日本はガラス研究者の人口が多く、ガラス会社も研究開発に力を入れているという背景がある」

VBに技術移転も

——経済産業省の経済活性化

《ひらお・かずゆき》
京大院工学研究科博士課程修了。昭和54年京大工学部助手、62年同助教授などを経て平成10年同工学研究科教授。14年同福井謙一記念研究センター副センター長を兼務。51歳。大阪府出身。

「世界で初めてガラスを高機能化した成果が実用化研究に移行するということだ。それ以外でも、ベンチャー企業（VB）と組んで実用化しようとしている成果もある。個人レベルで研究していても、なかなか成果を上げられないので、産学官連携によるプロジェクトを組んだ意義は十分ある。われわれは、このプロジェクトでインキュベーターの役割を果たす。ここから生まれた成果をどんどん実用化の方にもっていく、産業化に結びつけていくべきだと思う」

初の高機能化に挑戦